

札5 配水池内部の点検調査

求める技術：⑥

1 課題を抱える業務の内容

水道法では、コンクリート構造物（水密性を有するもの）である配水池等において、日常点検と定期点検の維持・修繕ガイドラインを定めています。定期点検では、池内の水を抜いて清掃に合わせた点検作業が必要となります。

2 課題の詳細

点検の方法は、コンクリート面の目視やたたき点検を主体としており、必要に応じて、非破壊検査やコア採取が求められています。この検査では、5～10年前との比較が必要となりますが、目視検査では、個人差が生じることがあります。



配水池清掃作業

3 こんな技術を求めています！

- 配水池の運用を停止せず水質にも影響を与えずに池内の点検調査を実施できる技術（天井面や壁面の確認もできるような技術）

想定される技術：水中撮影も可能な機材による比較検査の技術 など

4 技術の導入により代替が期待される業務

- 池内部の点検には、足場や梯子を利用することになりますが、安全性が高まることが期待されます。
- 配水池の池清掃の回数を低減できる可能性があります。
- 配水池の運用に関して、計画立案の業務や、直営作業の場合の人員確保を抑制できることが期待されます。

5 事業規模・業務量

配水池を休止するまでには、計画から排水・水張り・復帰までにおおよそ3日間を要しています。

点検池数：5池/年程度